

令和3年度第1回秋田県立図書館協議会(書面開催)要旨

1 書面開催概要

■令和3年10月1日(金) 事務局から各委員宛書面による協議会開催通知を送付

※送付資料内訳

館長あいさつ

資料1: 令和3年度秋田県立図書館事業実績

資料2: 令和3年度展示・イベント一覧

資料3: 秋田県立図書館の学校支援メニューについて

資料4: 開催中並びに今後の主な事業等のご紹介

■令和3年10月20日(水) 各委員からの書面による意見等回答書提出締切

■令和3年11月1日(月) 書面による意見等に関する回答を集約し送付

2 書面提出委員

会 長 高橋 秀晴

委 員 加賀谷 亨

〃 佐藤 博司

〃 片岡 俊仁

〃 小林 光代

〃 三浦由紀子

〃 朝野 明子

〃 渡邊 順子

〃 渡辺 歩

〃 工藤 正孝

〃 鈴木 竜典

〃 伊藤 良子

3 意見等依頼内容及び回答内訳

■表記について(●:委員 →:事務局)

(1)今年度の秋田県立図書館の活動について

●多くの制約を抱えながら、通常の事業、業務(展示・イベント、学校支援等)を遂行するとともに、新しい取組(大会・研修会等のオンライン開催、YouTube 配信)を始められていることがよく分かりました。入館者数の増加は、その効果の現れと見る事ができましよう。

●①事業実績について

・利用統計から、今年度は入館者数や新規登録者数が増加していることが分かる。貸出冊数も増え、コロナ禍における県民の心を読書が支えたことが推測される。

・入館された方々の年代が整理されれば、どのような分野の本を求めているかなど、利用者の読書傾向が分かりやすくなる。さらに、利用の少ない年代への対応など、これからの対応策が見えてくるのではないかと。

・来館が困難な県民のための、利用者カードの郵送受付は、コロナ禍が去っても引き続き実施することがよいと思う。利用者の状況を考えた良い方法である。

②学校図書館等への支援活動

・昨年度に比較して訪問等は少なくなっているが、状況に適切に対応した結果であると考えて。「実施し続けている」ということが大切であり、アウトリーチ型の図書館活動は、自分から図書

館に赴くことができない方々に対して、図書館そのものの存在感や価値を意識づけることになる。

③展示・イベント

・テーマのタイトルに、楽しさを感じる。たくさんの方々に来ていただきたいと思うので、さらに広報する方法はないだろうか。

・レファレンスの依頼内容から、広く県民に知ってほしいことがあれば、それをテーマにすることも考えられる。(すでに実施しているかもしれないが)

●コロナ禍において図書館の存在、本の大切さがクローズアップされたことは、館長挨拶にもあるように図書館の原点を再考させられた出来事だったように思う。その意味でも毎月工夫を凝らした様々なイベントを展開している職員の活動には頭が下がる思いだ。季節や社会の動きに連動したこのような展示は継続してもらいたい。

学校支援もさらに力を入れて欲しい。県民読書の日に計画している動画配信も意欲的な取組だ。ただ、せっかく良い企画をやっても、より多くの人に届かなければ自己満足に終わってしまう。来館者以外にも県立図書館の活動を発信する方法に知恵を絞ってもらいたい。

●高橋館長の御挨拶にもありますが、昨年度に比して来館者の50%増には驚かされました。県民生活において、いかに大切な施設であるかを痛感させられました。

学校図書館には、読書センターや学習・情報センターとしての機能に加え、近年は「心の居場所」としての役割も期待されつつあります。もちろん、このことと一緒ににはできませんが、居心地のよい空間がいつでも利用できることが、生活に潤いを与えるのだということを再認識させられました。

●コロナ禍で制約のある中、オンライン会議や動画配信等、工夫された活動を活発にしている印象を受けます。

学校図書館への支援事業で、セット貸出しは順調で良いと思います。反面、コロナ禍で学校図書館訪問が制限され、残念に思います。

●コロナ禍ではありますが、事業実績を見ますと、図書館を利用される方の人数が昨年より50%近く増加していることに驚いています。県立図書館の存在が県民の生活に欠かせない施設であると感じるとともに、県民の文化意識の高さを感じる結果とと思いました。

図書のセット貸出しは、蔵書数が十分ではない特別支援学校において、学校の読書活動を支える事業となっております。図書にふれあう機会を確保できていることに感謝します。

●学校図書館職員等研修会がオンラインで開催され、学校事情により今まで参加できなかった学校からも参加があったのはよかったです。また、遠方の学校にとっては、県立図書館までの往復時間・交通費の削減に繋がり、図書委員全員を参加させることも可能となりました。一方で、参加した学校の生徒からは、「県立図書館に行ってみたかった。ちょっとした質問等、なかなか言い出せない感があった」という感想が聞かれました。

秋田県図書館大会もオンライン開催となり、遠方の市町村図書館や学校にとっては参加しやすかったと思います。進行もスムーズでした。

●館長挨拶の中の「本県には本好きな人がこんなにも多いのか」に私も嬉しい気持ちでいっぱいです。そのことは、こつこつとたゆまぬ努力をされてきた職員の姿があったからに違はなく、心より敬意を表します。今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍という環境でありながら利用者が増

えていることにスタッフの熱気と誇りを感じます。

一点の質問は、学校支援に関する実績【資料3】について、この事業は高校のみを対象としたものでしょうか？

→高校のみではなく、特別支援学校も対象としております。また小・中学校には、市町村立図書館等を通じて、市町村向けセット資料等の貸出も行っております。現在はこのように学校の種類毎に分けて実施しておりますが、全体を効率的に利用してもらえる方策も今後の課題にしたいと思っております。その他にも現在はまだ試行錯誤段階ですが、県立図書館とは別に県子ども読書支援センターの活動として、県内の小学校と幼稚園、学童保育施設にも数箇所貸出しております。

●入館者が大幅に増加しているなかで笑顔の頑張りとお待たせしないよう早足の気遣いに感謝します。レファレンスも増えているが、お尋ねに根気強くお調べくださって丁寧な対応で疑問を解決していただいています。

●資料を拝見して、コロナ禍にもかかわらず、来館者の多さに驚いています。

私個人の感想ですが、以前にも増して職員の方たちが来館者への挨拶を含め、声かけをしてくださるような気がして親しみを感じています。

●コロナ禍の中でも、県図書館大会、研修会をオンライン開催していることを評価したいと思います。県民読書の日の取組が素晴らしいと思います。動画で公開してくださるのを楽しみにしています。

●コロナ禍においても様々な展示やイベントを企画開催していただき、とても感謝しています。個人的には早く学習席の座席数が戻ることを願っております。

(2)ウィズコロナ・アフターコロナの社会情勢を加味した上での今後の県立図書館の活動やあり方について

●オンラインによる情報提供・コミュニケーションを推進する一方で、それをきっかけに実際の本を手にとったり、展示・イベントに参加することを促す工夫を求められることになると思います。車の両輪を回すことが大事です。

●オンラインでの研修等も出かける手間が省けて良いと思います。が、やはり実際に対面で得られるものも多く、人数制限等の施策や工夫で是非実施して欲しいです。加えて、今後のアフターコロナ時代に向けての挑戦も期待します。

●・現在、コロナ禍のため直接参集することが難しいことから、オンラインでの会議や研修会が増えている状況ですが、逆にそもそも参集が難しい方にも研修会にオンラインで参加できるメリットも感じられます。

・動画で資料紹介や図書館見学ができることは素敵なアイデアと感じました。今後このような利用機会が増えると、これまでと違う方々の利用が増えると思いました。

・状況が落ち着きましたら、直接、図書館見学ができる機会を用意していただき、さらに動画による紹介につなげていただきたいと思います。

●コロナ終息後も、研修会のオンライン開催はあってもよいのではないのでしょうか。遠方から生徒を引率していくのが難しい学校は参加しやすくなります。しかし、オンラインだと他校の生徒

と直接情報交換が出来ず、発信者から一方的に意見を述べる形になってしまいます。そこで、講演はオンライン形式、ワークショップ等は集合型とするなど、1年の中で両方組み合わせて開催したらどうでしょうか。参加する学校は選択の幅が広がり、結果的に参加校も増えるのではないのでしょうか。

→そうした多様な方法を組み合わせた取り組みを検討してまいります。御提言ありがとうございます。

●オンライン研修や動画配信によるイベント開催は、現状にかなった取組と考えます。来月からのYouTubeの配信も是非拝見したいと考えています。

ICTを不得手とされる方々への対応について、例えば、サポートしながら館内で視聴していただくことなどもお考えではないかと思いますが、無理のない範囲でのご支援をご期待申し上げます。

●コロナに加え、高齢化社会・共生社会への対応として、特に社会的弱者への支援の観点からも本の宅配サービスやデジタル化、オンライン活動等をさらに推進する必要があると感じます。

●・もうしばらくコロナ禍は続くと予想される。これまで実施していることを、たとえ統計的に減少していると評価されても、継続することが大切だと考える。

・感染予防対策を徹底していることや各地から県民が訪れている中で感染がないことなど、図書館側の努力と同時に、入館される多くの方々の理解と協力のおかげであると思う。これまで同様に、入館者に対して感謝と協力をお願いを伝えてほしい。

・幼児教育への支援をさらに進めていただきたい。

・老人介護施設等ではどのような読書活動を進めているのだろうか。アウトリーチ型の支援活動の一つかもしれない。

→ありがとうございます。検討してまいります。

●先日、本の貸出延長でマイ図書館のシステムを初めて利用しました。とても便利だったので、コロナ社会の中でより多くの方にこのサービスを知ってもらえたらいいと思います。

●コロナと共存する世界は図書館にとっても大きな課題だと思う。来館者が増えているのは単にデジタルではなく、物としての書物を欲している人間の行動の現れではないだろうか。人は人と会わなければ生きて行かれないのと同様、本も生活に不可欠なものであることをコロナは証明したのだと思う。その上で県立図書館には、来館者の求める情報を分析し、利用しやすい棚の作り方、本の見せ方、情報の発信の仕方はまだあるはず。図書を増やすのではなく、蔵書をいかに活用して魅力ある図書館にするか。期待しています。

→ありがとうございます。より魅力ある図書館をめざして創意工夫を重ねます。

●オンライン開催や動画での公開を続けて欲しいと思います。

・既に発刊されている「秋田の昔話」などをビデオ紙芝居にしたり、耳で聞くNHKラジオ文芸館のような読み聞かせにしたりするのはどうでしょうか。

図書館でも視聴できるコーナーがあると良いですね。

→可能性も合わせて検討してまいります。御提言ありがとうございます。

●閲覧室が半分の状況で、子どもたちが学ぶ環境にもう少し協力できないですか？せめて、休日は子どもたちが主体にさせていただきたいです。大学生の投稿記事をメールに添付します。わがもの顔の勝手な高齢者は少し遠慮して欲しいです。席を探しながら歩く子ども達の姿に何とか解決方法はありますか。子どもは未来です。

→閲覧席の不足につきましては、当館としても大変心苦しく思ってきたところですが、このたび県の感染警戒レベルが2に引き下げられたのを受け、10月28日より座席の制限を一部緩和し、52席増やしております。今後もコロナの感染状況に合わせて対応していきたいと考えております。

●県立図書館の立ち位置の第一が「図書館のための図書館」だということは館長からうかがっていて、そのとおりだと理解していますが、来館者の増加を見ても「気軽に立ち寄れる場所」と認知されてきているように感じます。感染対策にも配慮してくださっているので、一般来館者向けにも何か考えていただけたらと思います。おはなし会等の再開についてもご検討ください。

→このたび県の感染警戒レベルが2に引き下げられたのを受け、おはなし会については11月から徐々に再開いたします。

(3)その他の御意見御質問について

●学校図書館向けのセット貸出についてですが、毎年テーマ数・セット数を増やしていただき、大変ありがたく利用させていただいております。しかし、利用している学校数は平成30年から毎年減っています。この減少理由について、どのように分析していらっしゃいますか？また、セット貸出を返却する際、コンテナには平置きに入れていますが、どうしても隙間が出来てしまいます。クッション材が入っているものもたまにあります。入っていないものの方が多いです。1冊立てて入っていたと連絡をいただいたことがありましたが、運搬の際に崩れたものと思われれます。県立図書館から届いたものの中にも、立てた状態になってしまっていたものや歪んで入っていたものがありました。セット数が多いので難しいかもしれませんが、全てのコンテナにクッション材が入っていることが望ましいと思います。

→御質問、御提言ありがとうございます。

平成30年度と令和元年度は米田前教育長の県立学校訪問時に、図書館職員も同行し、当館の学校支援業務の説明を行う機会を得たこともあり、平成30年度は前年度の利用校数33校から飛躍的に利用校数が伸びました。平成30年度と令和元年度が利用校数40を超えているのは学校訪問による効果と考えております。令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で学校訪問も思うように実施できなかったことも減少の一因と考えておりますし、令和3年度については8月末現在の数字であるため、今後さらに利用校数が伸びることを期待しています。

いずれにしても、学校の方針により減少することもありますし、各学校図書館での資料購入が充実してくれば反対に当館の利用も減る場合もありますので、利用校の減少については特に心配はしていません。

また、セット資料の扱いについては、いつも丁寧に使用していただき、感謝しております。セット資料の発送等の準備については、基本1人の職員が行っており、1人の職員ができる範囲内での発送準備にとどめています。クッション材の御意見については検討してまいります。

●①さらに図書館に赤ちゃんタイムがあります。当館の保護者たちは「走らないで」「シー」と気をつけています。

②前日の新聞を別ホルダーにできませんか？半月ごとは後半、重くなりますので。

③迷惑行為への対応（注意）は難しいですか。善し悪しは分かりませんが、きらら図書館は即対応します。大声に「静かにしてください」眠っている人に「大丈夫ですか？」と聞いています、

④個人的な経験。きらら図書館で1時間半の講演で中2階、軽食コーナーにお弁当を置きました。終了後、お弁当袋がカウンターで保管されていました。「携帯や財布があるかと置き引きされかねない」との考えのようです。当館は気づかないのか、2席確保や席に袋と2～3冊の本を置き、数時間離席を放置しているようです。先に入館した人が帽子を置いたので、「空いてますか」に「今来るはずだ」「来ねな。座っていいよ」と言われました。迷惑行為に「それなりの役職者2名」に話しましたが一向に改善されませんでした。迷惑行為をしている人に、自分の立場をわきまえず、「みんなの図書館です。公共の場で勝手なことをしないでください。」と話したところ「ウルセ。勝手だべ。」と言われました。これまで許されていたので、今更何を1利用者が干渉する！と感じたと推測しました。「長時間の席を～」本人たちは長時間と考えていないとしたら、個別の対応が必要ではないですか。

→御意見ありがとうございます。御指摘の点につきましては、他の利用者からの意見も参考にさせていただきますながら対応させていただきます。

●保育園、こども園等には読書コーナーがあります。しかし、保育者が園児の興味や意欲を引き出すような適切な絵本等の並べ方や分類のしかたを学ぶ機会がありません。指導していただけるような支援活動はありますか。

→お近くの市町村立図書館に要望を伝えていただければ、当館が主催する研修会への参加は可能ですし、時間の都合がつけば当館の訪問指導（コロナ後になります）も可能です。

●読書バリアフリー法を受けたコーナーの拡充については大変良い取組だと思うのでさらに力を入れて欲しい。

9月29日に開催された県図書館大会は、オンライン開催だったこともあり、新聞報道できず申し訳ありませんでした。内容について県立図書館の広報などで紹介しておさえればありがたいです。同様に10月20日、11月17日の研修会の内容についても紹介してもらえたら、とも思います。

●人口減少している秋田県、もうまったなしです。県の記念日に秋田県のすばらしさ、偉大な秋田出身者にライトを当てて欲しいです。（今回の安藤和風のように）

・地震多発の昨今、もし津波で所管している県の貴重な資料などが流出したら、と心配することがあります。

・ボランティアが中止となり、残念に思います。去年から図書館に行っておりません。一日も早くコロナ感染が終わることを待っているところです。

●秋田県には他県にない「県民読書の日」があることを、広く県民にアピールして欲しいと思います。いろいろな人を巻き込んで・・・。

●今後ともよろしく願いいたします。

●極めて個人的なことですが、雑誌等のバックナンバーを全国の図書館から探していただき、必要な部分のみを複写していただけるサービスは大変ありがたいと感謝しております。このような相談を含め、今後もレファレンス機能の充実にご配慮くだされば、一人の利用者として大変うれ

しく思います。

●「事業実績」について「1 利用実績」以外にも「同時期比較」があった方が状況を把握しやすいように思います。

 昨年各委員の「意見等」を反映していると考えられる点が認められます。ありがたいことです。

●コロナ禍において人々はより知識を求めていると思います。ネットで調べることより、リアルな図書館という場所で情報を調べ、探すという価値は、今後、より高くなっていくと思っています。これからも秋田の知の拠点として利用させていただきます。